



令和4年10月13日
海上保安庁

SAPPHIRE22 日米連携によるフィリピン沿岸警備隊に対する能力向上支援 ～FOIPの実現に向けた取組を継続していきます！～

海上保安庁は、令和4年10月23日（日）から11月5日（土）までの間、外国海上保安機関に対する海上保安能力向上支援の専従部門「海上保安庁モバイルコーポレーションチーム(MCT)」5名をJICAの枠組みでフィリピンに派遣し、米国沿岸警備隊(USCG)と連携した能力向上支援を実施します。

今回の支援は、本年5月18日、USCGとの協力覚書付属文書の署名後、二回目の日米連携による外国海上保安機関への能力向上支援となります。

- 1 今回 MCT は、フィリピン沿岸警備隊に対し、日本が供与した 97m 級巡視船を用いた訓練（「えい航訓練」、「搭載艇揚降訓練」等）及び「制圧訓練」を、USCG は、「ダメージコントロール」及び「立入検査」の研修を予定しており、日米両海上保安機関は相互に連携して、これらのプログラムを実施することとしています。
- 2 日米の海上保安機関である海上保安庁及び USCG は、1948 年の海上保安庁創設期より深く交流しており、様々な機会を通じて、連携・協力関係の強化を図ってきました。両機関は、海上保安機関として、海難救助、海上警備等を行っているほか、インド太平洋地域の海上保安機関に対する能力向上支援を行っております。

※ 日米両機関間における共同取組を「SAPPHIRE（サファイア）」と呼称し、2022 年に実施する取組を「SAPPHIRE22」と表記しています。

- ・SAPPHIRE：Solid Alliance for Peace and Prosperity with Humanity and Integrity on the Rule-of-law based Engagement
- ・日本語訳：法の支配の取組における誠実と仁愛に基づいた平和と繁栄のための強固な連携

過去のフィリピンにおける能力向上支援



えい航訓練



制圧訓練

【その他】

新型コロナウイルス感染症の蔓延状況の変化などにより、派遣内容を変更する場合があります。